

2021年4月19日

アウディ ジャパン株式会社
プレスサイト <http://www.audi-press.jp/>

お客様問い合わせ 0120 - 598 - 106
アウディコミュニケーション センター

Audi A6 e-tron concept – 次世代の“e-volution”

- アウディが上海モーターショーでラグジュアリークラスにおける電気自動車の Sportback コンセプトを発表
- 新しいテクノロジープラットフォーム：2022年からプレミアムプラットフォームエレクトリック (PPE) をベースにしたモデルが登場
- 出力 270kW の急速充電に対応し、700km 以上の航続距離を実現

(ドイツ本国発表資料)

2021年4月19日、上海/インゴルシュタット：アウディは、“e-volution”を推進し、e-モビリティを次の時代へと進化させます。2021年の上海モーターショー (Auto Shanghai) において、アウディは革新的な電気自動車ファミリーの先駆モデル、Audi A6 e-tron conceptを発表します。このコンセプトカーは、未来の電気自動車の新しいテクノロジープラットフォームとして重要な役割を果たす「プレミアムプラットフォームエレクトリック (PPE)」をベースにしています。2022年後半からは大型セグメントで、その後はミッドサイズセグメントでも、PPEテクノロジーをベースにしたモデルが発売されます。その商品レンジには、高い車高を特徴とする電動SUVだけでなく、今後登場する Audi A6 e-tron といったダイナミックなスタイルの乗用車も含まれます。

Audi A6 e-tron concept は、そのエンブレムが示すように、このコンセプトカーがラグジュアリークラスに属していることを明確に主張しています。Audi A6 は、1968年から1994年までは Audi 100 という名称で販売され、現在にいたるまで世界最大の量販セグメントの一つにおけるアウディを代表するクルマです。Audi A6 は、最初に Sedan と Avant が発売され、その後、allroad、Sportback (A7 Sportback) が追加され、モデルラインナップを拡充してきました。また、Audi A6 はその歴史の中で、早い段階から電動ドライブシステムを搭載してきました。2011年には、フルハイブリッドバージョンが発売されました。2019年には、プラグインハイブリッドドライブを備え、電動モードで91km (WLTP) の航続距離を誇る現行モデルの Audi A6 TFSI e が登場しました。

今回上海モーターショーで発表される Audi A6 e-tron concept は、Audi A6 TFSI e とは異なり、アウディ主導で開発した未来のプラットフォーム、PPE をベースにした純粋な電気自動車です。同時に、このモデルは、まったく新しいデザインコンセプトを体現しています。現行モデルの A6 と共通しているのは、その寸法だけです。Sportback としてデザインされ、全長4.96m、全幅1.96m、全高1.44mのサイズを備えたこのモデルは、アウディによる最新のデザイン言語の体系的な進化を明確に表現しています。

上海でデビューする Audi A6 e-tron concept は、単なるデザインスタディモデルではありません。そのスタイルは、アウディの未来の量産モデルがどのような姿になるのかを提示しており、アウディブランドが提供するラグジュアリークラスの電気自動車が、いかにダイナミックでエレガントなスタイルになるのかを示しています。

PPEテクノロジーを採用することにより、ファーストカーとしての実用性を備えながらも、ダイナミックなドライビングパフォーマンスを全身で表現することが可能になりました。Audi A6 e-tron は、選択したドライブシステムやバージョンにもよりますが、将来的に700kmを超える航続距離を実現し (WLTPモード)、もっともパワフルなモデルは、0~100km/hをわずか4秒未満で加速します。

E すなわち e-tron、そしてエレガント - Audi A6 e-tron concept のデザイン

Audi A6 e-tron concept は、ラグジュアリークラスに属するクルマで、全長 4.96m、全幅 1.96m、全高 1.44m の寸法は、現行モデルの Audi A6 / A7 シリーズとほぼ同じです。そのダイナミックなプロポーション、エレガントなライン、そしてアウディブランドの特徴となっているファストバックデザインを見れば、このクルマが風洞実験室から生み出されたことは一目瞭然です。

エアロダイナミクスは、ラグジュアリークラスにおけるアウディの長い成功の歴史において、常に重要な役割を果たしてきました。第 3 世代の Audi 100 が達成した 0.30 という Cd 値（空気抵抗係数）は、その当時のすべてのクルマの中で最高の数値であり、現在でも自動車史における伝説となっています。このモデルは、流れるようなボディラインを特徴とし、それまで非常に保守的であったラグジュアリークラスの自動車のデザインに革命をもたらしました。

今回発表される Audi A6 e-tron concept は、機能とフォルムを再び完璧に融合することによって、このサクセスストーリーに新たな章を追加します。0.22 という Cd 値は、大型セグメントに属する電気自動車としては、前例のない優れた数値です。簡単に言えば、このクルマは、空気抵抗が非常に少ないことを意味しています。これによって、電力消費量を削減し、航続距離を伸ばすことが可能になります。同時に、風洞実験室でファインチューニングが行われたことにより、非常にエレガントで細部に至るまで調和の取れた、有機的なデザインが生み出されました。

22 インチの大径ホイールと短いオーバーハング、フラットなキャビン、そしてクーペの広いルーフラインは、スポーツカーを連想させるプロポーションを提供します。明確なエッジが存在しないデザインにより、凸面と凹面がスムーズにつながり、ボディパネル全体にソフトな陰影がもたらされています。Audi A6 e-tron concept は、特に側面から見ると、あたかも一つの大きな塊から削り出したように見えます。

大きく傾斜したリヤサイドウィンドーのデザインは、アウディのスポーツバックモデルの典型的な特徴です。D ピラーは、ショルダールインから上方へと立ち上がり、流れるようなラインを描きながらルーフへとつながっています。印象的な quattro プリスターは、ボディの幅広さを強調すると同時に、ボディサイドに有機的な曲面を形成しています。

前後のホイールアーチは、彫刻的な造形のロッカーパネルで接続されています。ブラックのインレイが特徴的なこのロッカーパネルは、この位置にバッテリーが搭載されていることを示し、アウディブランドの電気自動車を象徴するデザイン要素となっています。また、他の Audi e-tron モデルと同様、A ピラーの基部には、先進的なカメラベースのバーチャルエクステリアミラーが装着されています。

フロントから見ると、Audi A6 e-tron concept は、アウディブランドの電気自動車であることがすぐに分かります。そのハイライトは、ドライブトレイン、バッテリー、ブレーキを冷却するためのエアインテークを左右に備えた、大型の密閉されたシングルフレームグリルです。フラットなヘッドライトベゼルは、フロントエンドの側面まで伸び、水平基調のボディラインを強調しています。

風洞実験室から生まれた空力効果は、リヤエンドに明確に表れています。アッパーリヤエンドは、空気の流れを切り裂くようなデザインが採用されています。下部セクションでは、大型リヤディフューザーのエアアウトレットが、スポイラーエリアと統合されています。これにより、乱流を低減しながら、車両の下のエアを導きます。これらの完璧な組み合わせにより、空気抵抗（= Cd 値）が低減し、リフトが最小化されます。

Audi A6 e-tron concept には、“Heliosilver”（ヘリオシルバー）と呼ばれるボディカラーが採用されています。このカラーは、Audi A6 e-tron concept の外観に、テクニカルで機能的な美しさをもたらしています。このボディカラーは、クルマの立体感と奥行きを強調します。これは、特に quattro ブリスターの周囲に見て取ることができます。フロントエンドでは、シングルフレームグリルもヘリオシルバーに塗装され、ディーブマットブラックのフレームと見事なコントラストを生み出しています。この明確なコントラストは、サイドボディのロッカーパネルセクションにも採用され、車両の水平方向のプロポーションを強調しています。

この塗料は、印象的な外観の創出に寄与するだけでなく、エネルギー消費量を削減するという、具体的なメリットも提供します。その理由は、このカラーは、太陽光をかなりの割合で反射するため、クルマのボディ、特に車内に入るエネルギーの量を減らすことができるためです。その結果、乗員コンパートメントは、多くの状況で一定レベルの快適性を維持することが可能になり、エアコンディショナーを使用する頻度が低下します。効率的な駆動システムに加え、ここでもエネルギー消費量を削減することができます。それにより、たとえ信号待ちで停止している場合でも、車両の航続距離を伸ばし、CO₂フットプリントを削減する効果があります。

見るため、そして見られるための照明 - Audi A6 e-tron concept のライティングテクノロジー

フラットなヘッドライトとテールライトは、スリムなデザインを特徴とし、ボディの同じ高さには設置されています。デジタルマトリクス LED とデジタル OLED テクノロジーにより、少ない表面積でも最大の明るさと幅広い機能を実現しています。また、ライトシグネチャーをカスタマイズすることも可能になりました。アウディの照明デザイナーと開発者のチームは、再び素晴らしい仕事を成し遂げました。このコンセプトカーのライティングユニットには、数多くの新しい機能とパーソナライズオプションが組み込まれています。

ボディの側面には、小型で高解像度の 3 台の LED プロジェクターが装着され、ドアを開くと、地面が光のステージに変化します。ここでは、ダイナミックな光の効果が地面に投影され、乗員に母国語で挨拶します。上海モーターショーのワールドプレミアでは、この挨拶はもちろん中国語で行われます。

安全機能と美的デザインを組み合わせることは、アウディにとって常に重要な要素となっています。そのため、小型の高解像度プロジェクターは、地面に警告マークも投影します。たとえば、ドアを開こうとしている場合は、後方から近づいてくるモーターサイクルのライダーに警告マークを表示します。

さらに、車両の隅にも、別の 4 つの高解像度 LED プロジェクターが目立たないように組み込まれ、ターンシグナルを地面に投影します。これらのプロジェクション機能は、必要に応じて、さまざまな市場や認証条件に対応するように変更することが可能です。

デジタルマトリクス LED フロントヘッドライトは、動画を投影する機能も備えています。たとえば、Audi A6 e-tron concept を、目の前が壁になっている駐車スペースに止めて充電する場合、ドライバーと乗員は、壁に投影されたビデオゲームを楽しむことができます。それぞれのゲームの仮想風景は、インストルメントパネルの小さなディスプレイではなく、XXL 形式で壁に投影されます。これらの機能は、デジタルマトリクス LED フロントヘッドライトを介して表示されます。プレーヤーは、車両の横または真正面に立つことで、幅数メートルのゲームを楽しむことが可能です。このゲームでは、コントローラーとしてスマートフォンを使用します。そして、ゲーム自体もアウディ製です。アウディのデザイナーは、Audi A6 e-tron concept のために、専用のゲームを考案し開発しました。

このコンセプトカーのリアエンドには、連続したライトストリップとして、新世代のデジタル OLED エレメントが採用され、ディスプレイのように機能します。また、デジタルライトシグネチャーやダイナミックライティングディスプレイを、オーナーの個人的な好みに合わせてほぼ無制限にカスタマイズすることも可能です。

テールライトの新機能の1つは、ボディ形状に合わせたデジタル OLED エLEMENTの3次元アーキテクチャーで、夜間にはボディ全体のイメージが浮かび上がるようなライティングデザインが可能になっています。これにより、以前のようにダイナミックな2次元の光のショーを演出できるだけでなく、印象的な3D空間効果を体験することができます。

当然のことながら、テールライトとヘッドライトは、その本来の役割を完璧に果たします。たとえば、ヘッドライトは、開発者の要件を完全に満たし、さまざまな交通状況、天候、環境にインテリジェントに適合して路面を明るく照らし出し、他の道路ユーザーとコミュニケーションを取ることもできます。超高輝度、均質、高コントラストのデジタル OLED コンビネーションテールライトは、未来の道路における安全性を特に大幅に向上させることができます。

さらに、車両の周囲に映像を投影することにより、従来の枠組みを超えたコミュニケーションが可能になっています。A6 e-tron concept は、インテリジェントなコネクティビティ機能により、他の道路ユーザーに視覚的なシグナルを表示して、情報を提供します。

SUV と乗用車の両方に採用可能

PPE は、電気自動車専用に設計されているため、このテクノロジーのメリットを最大限に活用することができます。A6 e-tron concept および将来登場する PPE をベースにした車両の重要な特徴は、前後アクスル間に搭載された容量約 100kWh のバッテリー容量です。車両ベース全体を有効に活用することで、比較的フラットなバッテリーレイアウトを実現できます。これは、この単一のプラットフォームを、基本的な構成を変えることなく、背の高い SUV モデルだけでなく、Audi A6 e-tron concept をはじめとする乗用車にも使用できることを意味しています。

PPE 車両のバッテリーサイズとホイールベースは柔軟に変更することができるため、さまざまなセグメントの車両に採用することができます。長いホイールベースと非常に短いオーバーハングの比率は、すべての車両に共通する要素ですが、大径ホイールと組み合わせることによって、デザイン面だけでなく、基本的なプロポーションの面でも、ダイナミックなスタイルを創出することが可能です。PPE モデルの長いホイールベースにより、乗員コンパートメントには、広々としたスペースが生み出されます。これは、あらゆるセグメントにおいて大きなメリットとなります。さらに、技術面から見ると、電気自動車はトランスミッショントンネルを必要としないため、一般的に内燃エンジン搭載車よりも広いスペースが生み出されます。

トランスミッショントンネルがなくても、アウディのオーナーは、ブランドのトレードマークである quattro ドライブシステムを選択することが可能です。未来の PPE モデルには、フロントおよびリヤアクスルにそれぞれ 1 基の電気モーターを搭載したバージョンが用意され、電気モーターを制御することによって、ドライビングダイナミクスとエネルギー効率の完璧なバランスを取りながら、オンデマンドの 4 輪駆動システムを実現します。さらに、e-tron ファミリーには、エネルギー消費量と航続距離を最適化したベースバージョンも用意されます。この場合、1 基の電気モーターがリヤアクスルに搭載されます。

Audi A6 e-tron concept には、350kW の合計出力と、800Nm の最大トルクを発生する、2 基の電気モーターが搭載されています。

サスペンションは、フロントには電気自動車用に最適化された 5 リンク式サスペンションが、リヤにはマルチリンクタイプのサスペンションが採用されています。さらに、このコンセプトカーは、アダプティブダンパーを備えた、アウディエアサスペンションも装備しています。

急速充電、長い航続距離

Audi A6 e-tron concept（および将来登場する PPE モデル）の技術的なハイライトは、800 ボルトの充電テクノロジーです。これにより、Audi A6 e-tron concept のバッテリーは、Audi e-tron GT と同様に、急速充電ステーションを利用すれば、最大 270kW の出力で、非常に短時間で充電することができます。アウディは、PPE とともに、この革新的なテクノロジーを、ミッドレンジおよびラグジュアリーセグメントの量産車に初めて導入します。

それにより、従来の内燃エンジン搭載車に燃料を補給するのと同じくらいの時間で、バッテリーを充電することが可能になります。300km 以上を走行可能なレベルまでバッテリーを充電するのに必要な時間は、わずか 10 分間です。また、25 分以内で、バッテリー容量を 5% から 80% まで充電することができます。

選択したドライブシステムと出力にもよりますが、Audi A6 e-tron concept は、700km を超える航続距離を実現し、一切の妥協なしに、一台目のクルマとして使用することができます。Audi A6 e-tron concept の航続距離と充電時間は、内燃エンジン搭載車に近づいており、近距離の走行から休暇を利用したロングドライブに至るまで、あらゆる用途に最適なユニバーサルカーに仕上がっています。

Audi A6 e-tron concept は、ダイナミックな走行特性の面で、他の電気自動車と同様に、燃焼エンジン搭載車を凌駕しています。電気モーターは、走り出した瞬間から力強いトルクを発生することが可能なため、高い効率を達成したエントリーモデルでさえ、0~100km/h を 7 秒未満で加速することが可能です。また、最上位のハイパフォーマンスモデルでは、わずか 4 秒未満で 100km/h に到達します。

PPE - 多用途、優れた柔軟性、エレクトリック

アウディ初の電気自動車、Audi e-tron は、2018 年にデビューしました。それ以来、わずか 3 年足らずで、アウディは、体系的かつ迅速に、製品ラインナップ全体に電動化モデルを導入してきました。Audi e-tron SUV および Audi e-tron Sportback に続き、Porsche AG と共同開発した新しい技術プラットフォームをベースにした非常にダイナミックな電気自動車、Audi e-tron GT が 2021 年 2 月にデビューしました。

そして、そのわずか 2 ヶ月後、Audi Q4 e-tron および Audi Q4 e-tron Sportback が発表されました。コンパクトセグメントに導入されるこの非常にユニークな電動 SUV モデルは、共通の技術プラットフォーム（フォルクスワーゲングループの MEB）をベースにしています。同じく電気自動車の Audi Q2 L e-tron は、2019 年から中国市場専用車として販売されています。

Audi A6 e-tron concept は、それとは別の革新的な技術プラットフォームであるプレミアムプラットフォームエレクトリック (PPE) をベースにしたモデルで、最初は大型セグメントに、後にミッドサイズセグメントとフルサイズセグメントに導入される車両ファミリーの最初のメンバーです。このモジュラーシステムは、アウディのリーダーシップの下で、Porsche AG と共同開発されています。PPE プラットフォームをベースにしたアウディの量産車は、2022 年の後半から順次発売される予定です。

PPE 車両は、グローバルに提供されるように設計されており、すべてのブランドの主要な市場で展開されます。アウディは、ヨーロッパの製造拠点と本社最大の単一市場である中国の両方で、これらの車両を生産する予定です。この目的のため、長春に新しい工場が建設されており、2025 年までには、PPE テクノロジーを搭載したアウディの電気自動車が生産される予定です。この工場は、アウディとその合併パートナーである VAW-Volkswagen（一汽大衆）が共同で運営しています。

PPE は、これまでに例のない幅広いモデルに対応できるように設計された最初のプラットフォームです。これには、背の高い SUV や CUV だけでなく、Audi A6 シリーズといった車高の低いアウディの主力製品

も含まれています。さらに、PPE の範囲は、ミッドサイズセグメントにも拡大される予定です。ミッドサイズセグメントは、何十年にもわたってアウディにとって最も販売台数の多い市場セグメントとなっています。また、PPE は、最上位のフルサイズセグメントの車両の開発でも、優れた技術プラットフォームとして利用することが可能です。

PPE により、SUV モデルよりも乗用車を好むお客様に対して、魅力的な電気自動車を提供できるようになります。その好例が、アウディブランドを象徴する Sportback であり、Audi A6 e-tron concept はその最先端のモデルです。

その結果、アウディは、量産セグメントのミッドサイズおよび大型セグメントに車両を投入することで、電気自動車のラインナップを効果的に拡大することができます。さらに、スケールメリットを活用することで、ラグジュアリークラスのテクノロジーと幅広いモデルバリエーションを、プレミアム市場では他に類を見ない幅広いモデルラインナップに展開することが可能になります。

これは、車両フリートの燃料消費量と CO₂ 排出量の削減にもメリットをもたらします。PPE は、量産モデルと多種多様なモデルを介して、e モビリティへの急速な移行を推進し、アウディのサクセスストーリーに新たな章を追加します。